

様式第3号(第4条関係)

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和6年度 丹波篠山市総合計画審議会 専門部会①
- 2 開催日時 令和7年3月17日(月) 15時00分から16時30分まで  
\*受付時間(14時45分から14時55分まで)
- 3 開催場所 丹波篠山市役所本庁舎4階401・402会議室
- 4 会議に出席した者の氏名
  - (1) 委員 前田 公幸、畑 富貴枝、足立 弘美、西田 正志、西尾 雅子  
(敬称略・順不同)
  - (2) 執行機関 藤田 尚位、西尾 友寛、竹内 一真
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 議題及び会議の公開・非公開の別 公開
- 7 会議資料の名称  
第3次丹波篠山市総合計画後期基本目標各論(案)について資料1、資料2
- 8 審議の概要
  1. 開会
  2. 協議事項
    - (1) 第3次丹波篠山市総合計画後期基本目標各論(案)について

(事務局)

総合計画の後期基本計画の各論案について、資料1に基づいてご協議いただきたい。

基本目標2の1の1であるが、この小目標に関して、委員から一つ指摘があった。こちらに関しては、いかがか。

(A委員)

#7119については、たまにテレビ放送していたので、一般的なものなのかと調べてみたが、県下では3市しかやっていないらしい。このシステムを丹波篠山市も運用していくイメージか。

(事務局)

お見込みのとおり。

(A委員)

そうであれば、#7119はある程度認知度はあると思うので、記載したほうが分かりやすいと思う。

(事務局)

承知した。

(事務局)

次の主要な取り組みの概要のところであるが、行政の役割の丸の2つ目、具体的に書くか省くか、いかがか。

(B委員)

現状と課題というところで、ささやま医療センターのことが書かれているが、この4月からかなり診療科が減る。そういったことも書いた方がいいと思う。それで診療科が減るとしたら、今後の医療体制は具体的にどういうふうにするかということを書いた方が良いでしょう。

(事務局)

確かに診療科が減っていくような状況であるが、今後どうなるか不透明なところも多いため、具体的なことは記載できないかもしれない。

(A委員)

どこまで記載できるかわからないが、丹波篠山の医療がどうあるべきかということをお

かる範囲で良いので記載してはどうか。

(事務局)

来年度に答申を出していただく予定であるが、その時にも状況が変わっているかもしれないため、そういったことも踏まえて担当課と調整する。

(事務局)

ドクターヘリの位置を改めて見直しや確認が必要ということをご指摘いただいている。こちらはいかがか。

(C委員)

頻繁に飛んでいるイメージがあるが、そういったところを記載しても良いかと思う。

(C委員)

搬送率のところであるが、1次救急と2次救急を合わせた全部の搬送率か。

両方合わせての話かと思うので、2次救急の搬送率で県外に行かない事例を差し引いて、軽症な患者の1次救急の搬送率と2次救急の搬送率を比較されたらどうか。

(事務局)

担当課と調整する。

(事務局)

2-1-2の高齢者が元気で生き生きと暮らすというところだが、小目標に対して、「元気」という言葉を取り除いてはどうかという意見を頂いている。

(D委員)

地域で安心して暮らせるということなので良いのではないか。

(A委員)

福祉部局ではどういう言い方をしているか。元気でという言葉を入れるのも良いが、生きがいという言葉を入れるのはどうか。担当部局と調整してもらいたい。

(事務局)

担当に確認させていただく。

次に、全体通しての意見があり、バリアフリーとかユニバーサルデザインを意識したまちづくりが必要というご意見をいただいている。こちらはいかがか。

(C委員)

バリアフリーは基本目標1にも出てくるが、重要な項目なので、短くてもいいので入れても良いかと思う。

(事務局)

承知した。

では次2-1-3であるが、現状と課題というところで「身体障害者」の「害」の字をひらがなにするべきとご意見いただいている。

(C委員)

行政は固有名詞や法律の部分には漢字を使っている。ただ、前文の「障がい者手帳所持者」は平仮名になっている。

(A委員)

この「身体障害者手帳」は法に基づく手帳のことを言っていると思う。だからどうしても誤解ないようにするには、例えば漢字は使うが、かぎ括弧で表現するとかはいかがか。

(C委員)

上にひらがなをうっておくとかはどうか。

(A委員)

ただの平仮名に書いたらいいとか、漢字にしたらいいとかいうことではなくて、考えをもって書いておけば、理解を得られると思う。

(事務局)

使い分けについて担当課と調整する。

次に2-1-4であるが、この小目標で目指すこと、下から4行目以降、これは現状と課題にするべきではないかというご意見をいただいている。

(B委員)

現状と課題と目指すべきところが一緒になっているように見える。

(事務局)

このあたりは課題に整理すべきものについては、課題というところで整理をさせていただけたらと思う。

(事務局)

成果指標について、市各種審議会、委員会への女性委員の登用率のところで45%の根拠は何でしょうかというご意見を頂いている。

(A委員)

指標としてあげるなら、例えば市の管理職の登用状況とか、市議会議員の女性の割合とか、自治会長の割合とか。

(事務局)

このあたり、本当に各種審議会委員会の女性の登用率というのがいいのか、おっしゃられたように管理職とか自治会の役員等の女性の登用という部分としては、他にも指標があると思うので、担当に再度確認する。

(A委員)

例えば、男性の育児休暇の取得率とか男性の家庭内の分担とかも考えられる。

(事務局)

承知した。

次に現状と課題というところで、SNS上での個人への誹謗中傷を、SNS上でのデマの拡散や個人への誹謗中傷に変えるべきではないかという指摘いただいている。

(C委員)

ここは、最近の社会問題にもなっているので書くべきかと思う。

(事務局)

承知した。

次2-2-1について、主要な取組の概要のところ、感染症などを広げないためにも休ませやすい環境づくりが必要ということを書いて加えては、という意見をいただいている。

(C委員)

下の記載でも体制整備みたいなのところも書いてありますし、そこで読めるかもしれない。

(事務局)

承知した。

次に2-2-2について、全体を通して、大人も特産品について知ることができる環境である

と良いとご意見を頂いている。施策の展開の方向に記載しているので、こちらの記載でいかせていただきたい。

次に、成果指標について、虫歯のない幼児の割合について、これはなぜ95%なのかという意見をいただいている。担当課にもこのあたりは確認をさせていただいて、なぜ95%なのかという根拠も含めて確認をさせていただく。

次に現状と課題のところ、ローリングストックの用語説明が必要とのご意見ですが、こちらはおっしゃる通りかと思うので調整する。

次に主要な取り組みで、「新しい生活様式に配慮しながら」は省くべきではないかというご意見を頂いている。担当課にも確認をしながら、ここはあえて入れる必要があるのか確認する。

(A委員)

オーラルフレイル健診というの注釈が必要かと思う。

(事務局)

承知した。

次に2-2-3の小目標で目指すことについて、この記載は現状と課題についてに記載すべきとの意見を頂いている。こちらについては全体的なことを考えて調整させていただく。

また、現状と課題のところ新型コロナウイルスというのは現状にそぐわないと意見を頂いている。

(A委員)

「様々な感染症の拡大による」という文言にしたらどうか。また、自殺者は増えているのか。それが安易な予測で増えていくことが予想されますって書くのはどうかと思う。現実にはそういうのがあれば書いたらいいと思う。データに基づいた記載にした方がよい。

(事務局)

増加傾向にあるのかどうか、確認する。

(事務局)

次の2-3-1全体を通してファミサポという支援、子育てセミナーに男性も積極的に参加してもらうような仕組みをつくるという記載にすべきと意見をいただいている。

(C委員)

行政の役割の2つ目、子育て支援拠点施設にファミサポという記載を入れれば良いのではないか。

(事務局)

そのことを踏まえて、記載していく。

(E委員)

アグリステーションも地域子育て支援団体として、会議にも呼ばれているが、現状、行政の支援を受けていない。民間と行政が手を取って子育て支援をしているというゴールは一緒である。子育てセミナーに男性も積極的に参加する仕組みづくりを記載してと書いてあるが、男性女性というくりに違和感がある。もちろん男性が積極的に参加するということは大事かと思うが、子育てで孤立されている方もいらっしゃるの、参加する人が男性ということは問わず、みんなで子育てをするという表記が必要かと思う。

(C委員)

パパママ教室に男性の方もたくさん来られている。若い世代については子育て意識が高くなっているように感じる。

(B委員)

子育て意識がこれだけ進んでいるという現状を書いても良いと思う。市民の考え方がこう変わってきたという評価を書けばよいと思う。

(A委員)

地域子育て支援拠点施設のところで、公的機関があるとはわかるが、民間も連携してやろうというところもたくさんある。地域子育て支援拠点施設等という表現でもいいと思う。若い親の一番の悩みはネットワークだと感じている。

(E委員)

連携というところで、行政と民間と支援しているゴールは一緒なので、民間との連携は記載が必要だと思う。

(A委員)

キーワードはこういう拠点施設のネットワークだと思う。

(E委員)

丹波篠山子育て支援事業計画の策定に関わるニーズ調査を読み込んでいたら、保護者さんのアンケートのデータが出ている。マーケティングしたときに子どもとか親がこういうことに困っているなど書かれているので、それと課題をリンクさせる必要があるのでは。

(事務局)

承知した。担当課とも調整する。

次に2-3-2については、ふた葉プロジェクトがなくなったということであるが、丹波篠山の教育にもあるので削除すべきではないというご意見をいただいている。こちらはこのとおりなので、担当課と調整する。

(A委員)

施策の展開の方向の4行目、園児という言葉が使われているが、一般的には幼児という言葉を使うと思う。幼稚園、子ども園に入っている子は園児で良いが、そうではない教育の対象としては幼児ということになっている。他のところも見ておいていただきたい。

(事務局)

承知した。

次に2-4-1全体を通して、先生の労働時間、生徒数の減少からクラブ活動が新しい体制に変わっていくことを記載してはという指摘を頂いている。

(B委員)

部活動の地域移行のことを指摘されていると思うが、地域移行については、2-4-5に記載がある。

(事務局)

この施策の展開の方向の中でも、部活動というような内容も書いてあり、2-4-5に具体的なことを触れているため、この辺りのバランスを取りながら検討したい。

次に成果指標のところ、目標の45%はよくわからないというご指摘を頂いている。

(A委員)

この指標は全国学力の項目が変わったことにより、似た項目を出してきていると思う。学校教育については、アンケート的な項目で把握されていることが多い。ただ、この指標が上の小目標で目指すことに合っているかどうか精査が必要である。

(B委員)

割合が45%でいいのか疑問に思う。

(事務局)

内容、状況について具体的なことを確認する。

(事務局)

次に 2-4-2 の成果指標のところ、郷土を愛し誇りに思うというようなアンケートを取っているかは担当課に確認する。

(A 委員)

成果指標の給食の地元産の使用率 20%というところで、これは食材別か。使用率の定義を調べておいてほしい。

(事務局)

承知した。

次に、2-4-3 であるが、青少年は非行や暴力だけでなくインターネットとの付き合い方が重要になってくるとのご指摘を頂いている。

(E 委員)

そういった相談窓口はあるのか。

(事務局)

地域振興課の消費者相談というところがあるが、詐欺等の相談窓口であるので、青少年の相談とはまた違うかもしれない。

(A 委員)

教育委員会としては、研究所に相談業務があるのと、県の方は line で相談できるのがある。それから sos ミニレターなどもある。

(C 委員)

これからの動きとしては、この青少年の課題も大きな課題になる。書き加えてもいいかもしれない。

(事務局)

次に 2-4-4 について、国際理解センターという文言を消している。どうして国際理解センターに消すのかという指摘を頂いている。

(A 委員)

これは実際に、事業の範囲が多様化しているので、国際理解センターがなかったら成り立たない。入れるべきかと思う。

(事務局)

次に 2-4-5 については、日本語の修正になるがいかがか。

(B 委員)

こちらの表現は、この指摘の形で良いかと思う。

(事務局)

この基本目標 2 で全体を通していかがか。

(全委員)

特になし。

(事務局)

他の基本目標で何かあるか。

(C 委員)

支援で一番困っているのが、認知症高齢者の運転免許返納の問題。基本目標 1-2-2 のところに、高齢者の運転免許返納者数ということで 250 人という目標を立てている。現状の課題について、子どもとか悪質とか色々書いてあるが、高齢者の指標を記載しているので、高齢者の免許返納者数の現状について書いた方が良くはないか。

(事務局)

現在、デマンドバスを導入しているが、公共交通の利用促進など、こういう課題を整理し、現状も踏まえて記載を検討したい。

(事務局)

特になければ、これで閉会させていただく。

以上